

# 地域医療連携だより

H26.1  
第31号



**兵庫医科大学病院**

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
TEL.0798-45-6111(大代表)  
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp>



## 新年のご挨拶「大学病院のトップブランドへ向けて」

病院長 太城力良



新年明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

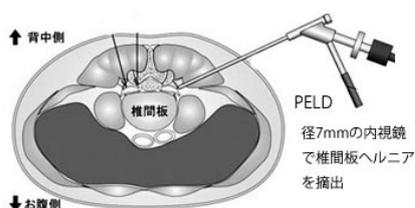
兵庫医科大学病院では、昨年2月に紙カルテから電子カルテシステムに一新しました。続いて4月には急性医療総合センターがオープンしました。同センターには災害拠点病院としての役割を充実させ、地震や台風などの災害時にも効率よく機能する救命救急センターと隣接するIVR（血管内手術）センター、ハイブリッド手術室やロボット手術装置ダヴィンチを装備する手術センター、アイセンター、集中治療センター、周産期センターなどの施設を包括し、高度な医療と密接な地域連携を展開しています。中でも救命救急センターの救急入院患者数は、例年の実績を40%も上回っています。

学校法人兵庫医科大学は、ここ数年の間に神戸市に兵庫医療大学の開学、ささやま医療センターのリニューアルなどの整備拡充を行ってきましたが、西宮キャンパスでも、大学本体となる新教育研究棟の建設に向けた計画が進んでいます。まずは、現在の精神科神経科病棟の移転先である8号館1階、2階の工事開始のために、既存施設の移設などの工事が始まりました。工事中は患者さんをはじめ皆さまにご迷惑をおかけしますがご容赦下さい。また、1号館4階に移転した医療人育成センターの中にはシミュレーションセンターがあり、隣接して電子カルテトレーニングセンターも完備されました。さらに隣接して、全国でも2番目の養成施設として、これまで東京女子医科大学にしかなかった手術看護認定コースが新設されました。これらの整備事業は兵庫医科大学が医系大学のトップブランドになるための手段です。最終的には、設備や建物ではなく、本学教職員や学生の自覚・意欲と知恵に基づく行動力が事業の成否を決定する一番の要因です。

われわれ病院教職員は新年を機に心を新たにして、さらなる発展を遂げ、そして患者さんや紹介元施設の皆さまに満足して頂ける医療を展開するべく努力することを誓いたいと思います。本年も、皆さま方にとりまして良き年であることを願っております。また、今後も病院運営にご理解・ご協力のほどをお願い申し上げます。

## 脳神経外科医による脊椎脊髄疾患の治療

脳神経外科 陰山 博人、田中 康恵、吉村 紳一



当院脳神経外科では、脳血管障害・脳腫瘍といった脳疾患だけでなく、脊椎脊髄疾患についても積極的に取り組んでいます。以前は脊髄腫瘍など限られた疾患の治療のみでしたが、この5年ほどの間に、頚椎・腰椎の変性疾患を中心に、脊椎・脊髄疾患につき幅広い症例をほぼ毎週手術も行うようになってきました。

治療方針について：患者さんの症状がレントゲンやMRIの所見と相関がある場合に手術を行います。画像所見が陽性であっても、患者さんの症状と関係がない場合や、患者さんが手術を希望されない場合には外来にて経過観察とします。また、術前カンファレンスには放射線科・神経内科といった関係各科の医師にも参加・評価いただき、脊髄疾患類似疾患の鑑別も確実にを行います。手術は中高年層が対象となることが多いので可能な限り低侵襲手術を選択します。画像所見を直すだけでなく、いかに症状を取り除き、日常生活や、職業復帰できるかを目指しております。また、平均年齢が高齢化しているため、将来再治療・再手術が可能となる術式を選択します。

手術の原則：低侵襲脊椎脊髄手術を常に念頭に置いて手術を行っています。全症例最新の手術用顕微鏡を使用し、顕微鏡操作に習熟した術者が安全で効果的な手術を心がけています。短期入院、早期に社会復帰できるよう、患者さんごとに術式を考えます。また、症例にもよりますが、腰椎椎間板ヘルニアに対するPELD（Percutaneous endoscopic lumbar discectomy）という径7mmの内視鏡を用いて経皮的に髄核、ヘルニアを摘出する術式、腰椎圧迫骨折に対するBKP（Balloon Kyphoplasty）バルーンによる椎体形成、腰椎すべり症に用いる経皮的椎弓根スクリューなど、最新の治療法も取り入れています。

### 【当科で治療できる疾患】

頭蓋頸椎移行部疾患；環軸椎脱臼、歯突起骨折  
 頚椎疾患；頚椎椎間板ヘルニア、頚椎症、頚椎後縦靭帯骨化症  
 胸椎の疾患；胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症  
 腰椎の疾患；腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症  
 腰椎変性すべり症、腰椎分離症  
 脊髄血管障害；脊髄硬膜動静脈瘻、脊髄梗塞、脊髄出血  
 脊髄腫瘍；髄内腫瘍、硬膜内髄外腫瘍、血管腫  
 奇形；脊髄空洞症、キアリ奇形、仙骨嚢胞  
 外傷に伴う脊髄損傷、圧迫骨折

感染症やその他、よく分からない手足のしびれや疼痛、腰痛、頸部痛、肩甲骨周囲の疼痛、歩行障害など、関係各科とも連携しつつ診断・治療に努めたいと考えています。



# 「 WE SET SWEET 」

## 看護部

兵庫医科大学病院看護部は、特定機能病院の役割を果たすべく①高度医療の提供、②高度医療技術の開発・評価、③高度医療に関する研修、④紹介患者への医療提供に基づき看護の質向上に取り組んでいます。看護部のモットーを WE SET SWEET とし、平成 25 年度から “SWEET from the hands of a nurse” のフレーズを加え心地良い療養環境・ケアの提供をめざしています。



心地よい療養環境・ケアの提供を目指しています

SWEET とは、私たちが心に備えたいと願う 5 つの要素の頭文字。  
看護部ではこのキャッチフレーズのもと一丸となって、チーム医療を支えています。

### SWEET は

Sincerity	誠 実 (な行動)
Warm	あたたかい (対応)
Evidence	根拠ある (実践)
Ethics	倫 理 (的感性)
Technique	(確かな) 技術

Sincerity	誠実 (な行動)
Warm	あたたかい (対応)
Evidence	根拠ある (実践)
Ethics	倫理 (的感性)
Technique	(確かな) 技術

の頭文字を取ったものであり、兵庫医科大学病院の看護師が心に備えたいと願う 5 つの要素です。

平成 25 年の急性医療総合センター開設に伴い、設備の充実に合わせ、高度な知識と技術を持った看護師を配置すると共に育成にも力を注いでいます。看護職は、患者さんの一番近くで最も長く接する医療職であるため、病棟部門は交代勤務、中央部門・外来部門は当直体制で 24 時間 365 日患者さんのニーズに対応しています。

高度救急医療や重症集中領域では、患者の適切な受入れ、綿密な観察による異常の早期発見と合併症予防を最優先とし、一刻も早く重症状態から回復できるように努めます。外科領域では、生活習慣病や複数の疾患を持ったハイリスク手術患者を中心に術前は精神・身体両面の準備を支援し最良の状態です術後に臨めるよう、術後は合併症の発生や苦痛を最小限に止め早期離床、社会復帰が図れるようケアします。内科領域では、診断確定の為に生体侵襲の大きい検査の介助や急性期や増悪期の症状緩和、慢性疾患の療養指導をします。周産期領域では、ハイリスク妊婦の受入れと安全な分娩、子育てが出来るように支援します。小児科領域では、NICU・GCU での周産期領域と協働した低出生体重児の管理を始め、治療や入院生活とともに成長、発達に目を向け親子共に疾患や障害を受容できるよう支援します。

さらに看護師は、当院で活躍する各種医療チームのまとめ役として、医師やメディカルスタッフと協働して患者さんやご家族に高度で専門的な医療を提供しています。医療チームには専門看護師、認定看護師を配属し、病院施設内のみならず在宅医療における支援や地域の医療施設や訪問看護ステーションとの連携強化にも取り組み、医療依存度・看護依存度の高い患者さんにシームレスな医療が提供できるよう調整しています。

今後、SWEET の精神のもと、更に活動を強化し地域医療の質向上に貢献したいと考えています。



## 津波対策訓練を実施しました

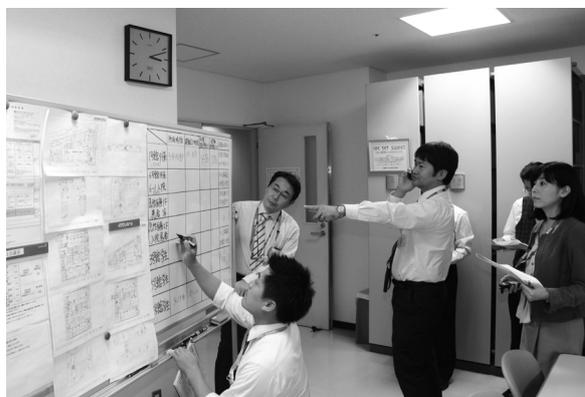
平成25年12月6日(金)、教職員(医師・看護師・コメディカル・事務職員)及び医学部学生、合計約90人が参加し津波対策訓練を実施しました。

この訓練は昨年度より開始し、大規模地震発生後に津波警報が発令された場合を想定し、患者さんの避難誘導に際しての基本行動や避難場所の再確認などを目的としています。

2度目の実施となる今回は、急性医療総合センター内でも訓練が実施されました。

急性医療総合センターは、地震時にも機能するよう免震構造を取り入れ、また津波などの大規模水害に備え機械室は最上階に設置するなど、災害拠点病院としての役割を果たすべく昨年4月にオープンした建物です。

今回の訓練で得た課題を検証し、今後も地震や津波など自然災害に対する知識を深めていけるよう、教職員一同取り組んでいきます。



## 第10回 兵庫医科大学病院 病診・病病連携の会 開催報告

平成25年10月5日(土)午後4時から、宝塚ホテル(宝塚市)にて、医師会及び地域の医療関係の先生方との病診・病病連携の推進を目的として、「第10回病診・病病連携の会」を開催しました。当日は医師会及び地域の医療機関33施設の先生方をはじめ看護師、ソーシャルワーカーのみなさん等、院内外で120名の参加がありました。

今回は、「がん最前線・大腸がんの診断と治療」の演題で、当院の内科下部消化管科・下部消化管外科・放射線治療部の医師、計4名による講演を行いました。講演会終了後の懇親会も多くの方にご参加いただき盛況のうちに終了いたしました。今後も地域連携を深めるため継続して開催する予定ですので、是非ご出席くださいますようお願いいたします。

